

## 第 107 回薬剤師国家試験の採点にあたって考慮した問題について

## 1 日目②【一般問題（薬学理論問題）】 問 98

問 98 日本薬局方塩化カルシウム水和物 ( $\text{CaCl}_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$  : 147.01) の定量法に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

本品約 0.4 g を精密に量り、水に溶かし、正確に 200 mL とする。この液 20 mL を正確に量り、水 40 mL 及び 8 mol/L  2 mL を加え、更に NN 指示薬 0.1 g を加えた後、直ちに 0.02 mol/L エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム液 で滴定する。ただし、滴定の終点は液の赤紫色が青色に変わるときとする。

$$0.02 \text{ mol/L エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム液 } 1 \text{ mL} \\ = \text{  } \text{ mg CaCl}_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$$

- 1  に入れるべき溶液は、「アンモニア・塩化アンモニウム緩衝液」である。
- 2 下線部イの溶液は遮光のガラス瓶に保存する。
- 3  に入れるべき数値は、2.220 である。
- 4  $\text{Ca}^{2+}$  とエチレンジアミン四酢酸との反応で生じたキレートの錯生成定数は、 $\text{Ca}^{2+}$  と NN 指示薬との反応で生じたキレートの錯生成定数より大きい。
- 5 本定量法では、試料溶液中に  $\text{Mg}^{2+}$  が共存していても、塩化カルシウム水和物を定量することができる。

## 採点上の取扱い

全員を正解として採点する。

## 理 由

問題としては適切であるが、今回の受験者の正答率及び識別指数等を考慮し、難易の補正を行うこととしたため。

第 107 回薬剤師国家試験の採点にあたって考慮した問題について

2 日目③【一般問題（薬学実践問題）】 問 328

問 328 45 歳女性。身長 152 cm、体重 40 kg。アルコールの慢性的な大量摂取に伴う慢性肝炎治療のため、これまで入退院を繰り返してきた。今回、Child-Pugh 分類で B（8 点）の肝硬変と診断され、治療目的のため入院となった。

（入院時の検査値等）

脳症Ⅱ度、腹水 2 L、総ビリルビン 2.5 mg/dL、血清アルブミン 3.0 g/dL、  
PT-INR 2.0、AST 85 IU/L、ALT 80 IU/L、 $\gamma$ -GTP 21 IU/L、  
アンモニア 420  $\mu$ g/dL、血清クレアチニン値 0.7 mg/dL、  
eGFR 71.0 mL/min/1.73 m<sup>2</sup>、Na 142 mEq/L、K 4.8 mEq/L

（入院時の持参薬）

レボカルニチン内用液  
プレドニゾン錠  
ウルソデオキシコール酸錠  
ラクツロースシロップ  
レバミピド錠

脳症及び腹水貯留の改善が思わしくないことから、追加を提案する薬剤として、適切なのはどれか。2つ選べ。

- 1 ラクチトール水和物散
- 2 バンコマイシン散
- 3 リファキシミン錠
- 4 トルバプタン錠
- 5 アセタゾラミド錠

採点上の取扱い

全員を正解として採点する。

理由

選択肢が不適切で正解が得られないため。